論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

㊀・乙	氏　名	藤森　太一
学　位　論　文　名	Diagnostic Errors in Japanese Community Hospitals and Related Factors: A Retrospective Cohort Study	
学位論文審査委員	主　査	渡部　広明　印
	副　査	岩下　義明　印
	副　査	大嶋　直樹　印

論文審査の結果の要旨

診断エラーには複数の定義と評価方法が存在するが、日本の地域病院における診断エラーの実態についての報告はほとんどない。そこで本研究では、日本の地域病院（二次救急医療機関）における救急部門で生じる診断エラーの発生率およびその関連因子について検討した。カルテ記録を用いた後ろ向きコホート研究である。2021年1月から10月に二次救急地域病院の救急外来から入院に至った症例のうち、etiologyが明確な症例を対象から除外した924例を対象症例とした。また、①初療時の診断名と最終診断名との不一致症例、②診断名が未確定な症例、③入院時と転院先での診断名が不一致症例をそれぞれ診断エラー症例と定義した。その結果、924例中121例の13.1%に診断エラーが認められた。この頻度は過去に海外で報告されている頻度と概ね一致していた。次に診断エラーの関連因子について多変量解析を行ったところ、酸素投与が必要（OR 0.31, 95% CI 0.34-0.94, p=0.010）、女性であること（OR 0.57, 95% CI 0.13-0.76, p=0.029）は診断エラー頻度を低減する因子として抽出された。この結果は、軽症感を有する患者への過小評価ならびにheuristicな臨床推論早期閉鎖といった医師の認知バイアスが関連している可能性が示唆された。つまり診断エラーは多様な臨床状況の中で生じる複合的現象であるが、患者の重症感や性別などの患者側因子も診断エラー頻度に影響することが示された。考察として、一旦診断名がついた場合であっても再評価により診断エラーが低減する可能性が考えられた。診断エラー低減に向けての取り組みやシステム構築が推進されることが望ましく、今回の研究結果は、患者安全、医療の質向上に資するものと考えられる。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は、日本の地域二次救急医療施設における救急部門で発生する診断エラーについて検討し、その発生頻度と発生要因について明らかにした。我が国の地域二次医療施設における診断エラーに関する基礎的データを初めて報告した研究であり、審査において関連する領域の基礎的知識を有することも確認でき、医学博士として学位授与認定に値するものと判断した。　（主査　渡部　広明）

申請者は地域の病院の救急外来での診断エラーについて、発生率が13.1%で酸素投与を要することが頻度を低減する因子であることを見出した。申請者の臨床的疑問にもとづく研究で、今回の研究の限界に基づく今後の研究計画も適切であり、学位授与に値すると判断した。　（副査　岩下　義明）

申請者は、地域病院の救急外来における診断エラーの実態を解析し、13.1%の症例に診断エラーを認めた。酸素投与例や女性では頻度が低く、患者因子や認知バイアスの影響、再評価体制の重要性が示された。審査における発表および質疑応答はいずれも的確であり、関連領域に関する豊富な知識も認められたため、医学博士として十分な資質を備えていると判断した。　（副査　大嶋　直樹）

（備考）要旨は、それぞれ４００字程度とする。